

編集後記

本年度も無事に『年報太宰府学』を刊行することができました。

第四号には三本の論考と、資料紹介、文献目録、資料目録を収録しています。貴重な成果をお寄せくださいました執筆者のみなさまには、この場をかりてお礼申し上げます。

八尋氏の論文は、興福寺木造十一面観音像の造立と、それをめぐる僧運照と京仏師照暁の活動をとおして、発注者たる寺院・僧と仏師との関係や京仏師の地方における造像の具体的様相を明らかにしたものです。

柳氏の論文は、今年度の市民遺産展の成果をまとめたものです。太宰府の木鷲について、製作者からの聞き取り調査と数多くの木鷲の調査から、これまであまり知られていなかった木鷲の形態の変遷や作成過程について明らかにしています。

山村氏の論文では、特に太宰府での出土が特徴的な梅鉢文瓦の発掘調査の成果をもとに、十八世紀から現在まで続く太宰府の屋瓦について、その変遷と生産者を追ったものです。

藤田氏による資料紹介は、地域の産業や教育振興に大きく関わった永田権平翁の民功碑の調査報告です。また、永田家からは貴重な資料をご寄贈いただきました。本号に資料目録を掲載しておりますので、併せてご覧いただければと思います。

川添顧問・朱雀氏編の文献目録は、少弐氏研究の文献および研究動向をまとめた最新のデータで、当該研究の進展に寄与するものとなっています。

前号に続いて資料目録が掲載されましたように、資料室での古文書調査や資料公開もようやく軌道に乗り始めました。二〇一〇年二月現在、寄贈・寄託をうけた資料は九件、一七六三点、収集資料が二件、九四点、複製物の公開を行っている資料が八件、七一八点となり、二

五七五点の資料の閲覧が可能となりました。

このほか福岡日日新聞、九州日報、西日本新聞などの福岡の地方紙についても、昭和三〇年代までのマイクロフィルムを備え、明治・大正期は紙焼きをほぼ揃えており、県内でも屈指の閲覧環境となったかと思えます。

こうした環境が整えられたのもひとえに、これまで資料の寄贈・寄託および調査にご協力いただきました皆様や、文化財総合的把握モデル事業での調査員の皆様のおかげだと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。

現在、当室の調査・研究環境には、不十分な点多々ございますが、九州歴史資料館の移転後、当室が太宰府における歴史研究の拠点のひとつとなっていけるよう、日々努力していきたいと思えます。(Y)

年報太宰府学 第四号

発行日 平成22年3月30日

編集 太宰府市史資料室
発行 太宰府市

〒八八八-〇一〇一
太宰府市観世音寺一丁目一号
電話〇九二-九二二-二二二二

印刷 株式会社博多印刷
〒八二二-〇〇二八
福岡市博多区須崎町八番五号
電話 〇九二-二八二-〇〇四一